

令和2年度 学校経営報告

		令和2年度の取組と自己評価			次年度以降の 課題と対応策	
柱	教育活動の目標取組 と自己評価	重点目標への取組と自己評価	数値目標等の達成度合い			
			2年度実績	元度実績		
一 学 習 指 導	補習講習の充実・学習習慣の定着・読書活動の推進	(1) 授業とともに、補習講習を充実させ、進路希望実現に必要な学力を身に着けさせた。	(ア) 短縮された夏季休業や冬期休業であったが、放課後等の補習や講習を含め、学校全体で計画的に実施できた。	夏期講習40講座	夏期講習50講座	補習・補講は60講座以上を確保。 教科と学年で連携し、学力上の課題を解決すべく、講座を計画的に実施し、早期に生徒への周知を行う。 各種検定の補講・補習と連携した組織的取組みにより受検者数の一層の向上、家庭学習の課題の内容、提出の方法の改善を図る。 新設する図書館運営委員会や、学年や科会を中心に検討し、教科での読書活動の推進を継続して行い、月2冊以上読む生徒を全体の25%以上にする。
		(2) 自学自習の励行、資格試験の奨励、学習課題の工夫などで、学習習慣を定着させることができた。	(イ) 学年棟の自習室を設置し、日常や定期考査期間中の自習環境を充実させた。 (ロ) 資格試験を奨励し、授業や講習、課題等で必要な指導を行った。 (ハ) 効果的な課題の与え方について工夫できた。	放課後の補習・講習を組織的に実施した。 1日30分以上の家庭学習は、全体の62% 漢検合格者13名、英検合格者7名	放課後の補習・講習を組織的に実施した。 1日30分以上の家庭学習は、全体の40% 漢検合格者14名、英検合格者11名(1級1名)	
		(3) 読解力向上を目指して読書活動を推進した。	(ニ) 授業、課題作文など読書活動を活発化できた。一方、感染症拡大に伴い、ビブリオバトル、他校交流などができなかった。	月2冊以上読む生徒は、全体の19%以上	月2冊以上読む生徒は、全体の21%以上。 成瀬高校との読書交流会の実施	
	授業時間確保	(4) 臨時休業の影響を最小限に抑え、進路希望実現に必要な学力を身に着けさせた。	(ホ) 年間行事計画の再検討で、授業時間の確保を図った。 (ヘ) 授業規律の維持を図った。	チャイム着席する習慣から時間を守る意識の生徒が90%になった。	チャイム着席する習慣から時間を守る意識の生徒が92%になった。	授業時間を確保する為にチャイム着席の習慣定着は、継続して取り組む。
		授業改善	(5) 指導内容と方法を工夫し、授業力を向上させた。	(ヒ) 相互授業見学を実施した。授業者は自分の課題を認識し、見学者は報告書でフィードバックした。	報告書提出 各学期83%	
	(6) 生徒による授業評価を分析し、授業に反映させた。		(フ) 若手教員の研究授業を契機に、全体の授業力を向上させた。 (ク) 生徒による授業評価を年2回実施し、授業改善に活かした。	生徒の授業満足度80% 授業が学力向上や進路実現に役立っている 教員94% 生徒81%	授業満足度69% ICT機器を活用した授業70%以上	
	(7) アクティブ・ラーニング的手法などで、思考力・表現力等を高めるとともに、学習内容の定着を図った。		(ケ) 総合探究委員会、「教育課程研究指定校事業」等で、指導や評価の研究に取り組み、言語活動や探究学習等を活発にした。 (コ) 学力向上推進委員会や教務部、進路部で学力検査、模擬試験等を、教科会で定期考査、学力調査問題、課題テスト等を分析し、課題発見と改善に努めた。 (カ) 次期教育課程の検討を進めた。	教材研究、指導方法を工夫している 教員100%。 生徒80% 思考力・判断力・表現力を育てる授業 教員96% 生徒81%	教材研究、指導方法の工夫がある 68%。 言語活動を導入した 授業90%以上 主権者教育等を外部機関と連携して実施。	
	(8) 「学力スタンダード」の結果を教科会で検討し本校の指標を明確化、学習活動の改善に努めた。					

	総合的な探究の時間 (道徳・奉仕)	(9)「総合的な探究の時間」などでキャリア教育等を推進し、自己の在り方・生き方を見つめさせ、課題発見とその解決に取り組ませた。 (10)オリパラ教育や異文化体験	(8)アクティブ・ラーニング的手法や体験活動等により、自他理解、課題解決、在り方・生き方等について主体的に考え、発表する機会を設けた。 (9)感染症対策の影響で、オリパラ講演会などはできなかったが、各教科内の授業で、国際社会への興味関心を高めることができた。	「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」68% 「自分の将来を考えた」76%	「自己の見直しが出来た」70% 「人間関係を考える手がかりになった」67% 「異文化理解が深まった」73%	総合的な探究の時間を通じて、地元地域の探究やキャリア教育から、地域や自身の課題を発見し、解決に導く力をさらに付けさせる。「自己や人間関係を考える」70%、「自分の将来を考える」80%にする。 世界と地域の文化、特徴等を踏まえたオリンピック・パラリンピックとの交流を促進
生活指導	基本的な生活習慣の育成	(1)規律正しい生活習慣や規範意識の向上の為に、集団生活のルールやマナー等について、教職員全員で積極的に指導できた。	(7)遅刻指導、自転車指導、服装指導等を、学年と生徒部が連携して計画的に実施した。 (1)交通安全教室、避難訓練等を、関係機関と連携して実施した。 (9)全校で挨拶を励行した。	学校の規則を遵守している92% 時間の管理ができている90% 登下校のマナーができている98% 挨拶ができている92%	遅刻指導の徹底91%。 自転車マナー良好81% 時と場所に合った身だしなみ指導91%	学校の規則を遵守している95%以上 時間の管理ができている90%以上 登下校のマナーができている98%以上 挨拶ができている95%
	清掃・美化	(2)校内や近隣の清掃美化、花壇の整備等に取り組んだ。	(1)美化委員を中心に美化活動、生徒会やボランティア部を中心に花壇整備等に取り組み、その活動を全校に広げた。	美化委員による清掃活動、生徒会を中心とした有志も募った花壇の整備等を実施 校内美化に努めている82%	美化委員による清掃活動の他、部活の有志で校舎外での清掃活動や生徒会を中心とした有志も募った花壇の整備等を実施 「校舎内の清掃活動は行き届いている。」が全体の93%	美化委員会を中心に主体的に美化週間、美化活動に取り組ませ、生徒会、ボランティア部を中心とした花壇整備の活動の規模を一層学校全体で活発化させ、「校内美化に努めている」生徒が全体の90%以上になることを目指す。
	規範意識の育成	(3)自己と他者を尊重する態度を育てた。 (4)問題行動の早期発見、早期対応に努めた。 (5)情報モラルについて多様な場面で考えさせた。	(8)ルールやマナーについて、学年集会や学年通信・メール配信など多様な機会に周知し、生徒観察や個人面談などで状況把握に努めた。 (1)いじめアンケートやいじめ対策委員会を活用し、課題に対しては毅然とした姿勢で学校全体が臨んだ。 (9)情報科やホームルーム、家庭と連携し情報モラルを育成。	安全・安心な学習環境が保たれている84% いじめをなくすための積極的な対応ができている91% 生徒の悩みに適切な対応ができている92% 情報モラルの理解97%	規律の理解は全体の40%。 「体罰等の取り組みに積極的」80% 「情報モラルが身についた」96%	安全・安心な学習環境が保たれている90% いじめをなくすための積極的な対応ができている93% 生徒の悩みに適切な対応ができている95% 情報モラルの理解98%
特別活動・部活動	学校行事	(1)臨時休業による影響を最小限に抑え、生徒会を中心とした主体的な取り組みの支援。 (2)日本の伝統文化を理解発信する取り組み。	(7)感染症対策や緊急事態宣言の影響により、文化祭、体育祭、合唱祭、遠足、修学旅行、ロードレースなどが中止となった。学年が中心となって球技大会は実施できた場合もあった。	学校行事や委員会の積極的な取り組み80%	「学校行事を通して多様な生活体験が出来た」81%	学校行事や委員会の積極的な取り組み85%
	部活動	(3)部活動を通じて、達成感、連帯感、自他尊重の精神を養った。	(1)時差通学や緊急事態宣言の影響により、十分な部活動を実施することができなかった。 (9)部活動方針について保護者・生徒と顧問で共通理解を図った。	部活動への積極的な取り組み70% 部活加入率70% 体罰事故 0	部活加入率69% 1年97% 体罰事故 0 外部トレーナーによるトレーニングを実施し参加者320名	部活加入率73% 体罰事故 0 地域、中学校等との交流試合等広報活動を活発化させる。

IV 健康UPVS	健康の保持増進	(1) 学校と家庭、地域関係者が連携し、生徒が健康で安心安全に学校生活を送れるようにした。	(ア) 学校保健委員会を中心に全校で、感染症防止を徹底し、臨時休業中・後の健康観察に留意した。 (イ) 保健体育、家庭科、特別活動等で、健康増進について具体的な指導を行った。	熱中予防等事故発生時の対応の理解を深めた。 体調不良や怪我への適切な対応92%	熱中予防等事故発生時の対応の理解を深めた。	事故発生時対応訓練、学校保健委員会を継続 基本的生活習慣や健康三原則(栄養・運動・休養)の定着に努める。
	教育相談・体力づくり	(2) 「学校いじめ対策委員会」「特別支援教育委員会」を中心に、全校で教育相談に取り組み、心身ともに健康で学校生活が送れるように支援した。 (3) 体育祭、マラソン大会、部活動等を通じ、基礎体力の向上。	(ウ) カウンセラーを有効活用し、学年・生徒部・保健室が連携し、全校で情報共有や教育相談に取り組んだ。 (イ) 発達障害について共通理解を深めた。 (オ) 生命尊重教育を推進した。 (カ) 感染症の影響により、体育祭、マラソン大会は実施できなかったが、体育授業内での補強運動などで体力向上に努めた。	カウンセラーによる課題のある生徒への対応方法の研修 特別支援に関する委員会8回開催 生徒の悩みへの適切な対応92%	カウンセラーによる課題のある生徒への対応方法の研修 保健だよりの発行 特別支援に関する委員会11回開催	カウンセラーによる市と全員への個別面談の早期化による課題の把握 特別支援教育の校内研修、特別支援学校との連携の充実化
	面談	(1) 面談を充実することで、進路意識を喚起させ、進路希望実現への取り組みを支援した。	(ア) 進路部が模試データなど進路情報を集約・分析・提供した。 (イ) 進路部と学年が連携して、生徒一人ひとりの進路指導を検討し、その成果を個人面談や進路ガイダンス、保護者会等で活かした。	二者面談 1年2回、2年2回 3年3回 三者面談 1年2回、2年1回 3年2回	二者面談 1年2回、2年2回 3年2回 三者面談 2年1回、3年1回	二者面談と三者面談の複数回の開催と丁寧な指導
V 進路指導	進路指導	(2) 系統的進路ガイダンスプログラムを充実させた。 (3) 臨時休業の影響を最小限に抑えるべく、進路指導や講習補習を充実させた。 (4) 「進学指導研究校」として高めた進学指導力と教科指導力、その実績をさらに向上させ、「進学指導研究校アソシエイト」として、他校に情報発信した。	(ウ) 大学など外部機関も活用し、進路ガイダンス、進路講演会、現役大学生による進路説明会、面接指導、資格取得、奨学金等の業務に取り組んだ。 (イ) オープンキャンパス参加で、進学先の研究を進めた。 (オ) 模試の分析を実施して、その成果を教科指導や進路指導等に活かした。 (カ) 次期教育課程の検討とともに、高大連携や共通テスト等、大学入試の動向について情報収集提供に努めた。 (キ) 学校選抜型入試やオンライン面接など新しい入試制度や方法へ柔軟に対処した。	進路希望達成率91% 進路資料や進路講話の充実89% 進路相談や面談などの充実87% 計画的な進路指導88% 大学共通テスト受検者125名 大学進学203名 短大進学10名、 専門学校65名 看護9名 (専門6名、大学3名) 就職7名	進路希望達成率88% 「進路情報、アドバイスを十分提供している」90% 「進路指導は1年から計画的に行われている」92% 「授業、ガイダンス、補習、講習は進路実現に役立っている」90% 大学センター受検者105名 大学172名、短大15名、専門学校83名、看護19名 (専門13名、大学6名、短大0名) 就職10名	進路希望達成率90% 3年間の系統的進路ガイダンスの取組みを自主作成した「進路ガイダンス」に基づいて計画的に実施してゆく。 職業理解、文理・選択科目についての理解、しごとセミナー、現役大学生による進路説明会、小論文指導、面接指導、進路紹介セミナー、オープンキャンパスへの参加奨励等を各学年との連携を密接に図り整備して実施してゆく。
	就職指導	(5) 生徒の希望や適性を考慮しながら、望ましい勤労観・職業観を育て、社会の一員として活躍できる資質態度を育てた。	(ウ) ハローワーク、東京仕事センター等と連携した職業体験・しごとセミナー・職業紹介・面接練習や職場訪問等で、就職希望の実現を支援した。 (イ) 職業人として必要な基礎学力を身に付けさせた。			

	学力向上と推移の把握	(6) 学力向上推進プランに基づき、授業改善を行った。外部実力テストを面談に生かす工夫をした。	(7) 学力向上推進委員会を設置し、国・数・英・社・理で定期考査、学カスタンダードの応用問題を用いて学力調査を実施（2回）。本校入試の学力検査成績を分析し、授業改善等に役立てた。「学カスタンダード」委員会を開催し各教科での内容の検討を行った。	学力調査問題 1,2年5教科で年2回(10月、3月) 課題テスト 1,2年で3回(6月、9月、1月) 実力テスト等3回(4月、9月、11月)	学力調査問題を1,2年5教科で年2回(10月、3月)1,2年で課題テスト3回(4月、9月、1月)実力テスト等3回(4月、9月、11月)	スタデイサポート、実力テストを1,2年3回継続して実施する。学カスタンダードを作成し、本校の指標を明確化し学習活動の改善に努める。
Ⅱ 募集・広報活動	学校PR	(1) 様々な手段を活用して、本校に関する情報を、正確・迅速に発信し、理解を深めてもらうことができた。 (2) 学校説明会等の機会を積極的に利用し、組織的・計画的に広報活動を推進し、本校への理解を深めてもらうことができた。	(7) ホームページ、学校案内等を工夫し、学校の特色を効果的に伝えた。 (1) 学校説明会用パワーポイントを更新した。 (2) 感染症対策のため人数を制限しながら、学校見学・説明会、公開授業、部活動見学等を行ったが、部活動体験や出前授業等はできなかった。 (3) 感染症防止のため、中学校・塾訪問は十分にできなかった。 (4) 学校説明会補足資料等を充実させ、一貫した説明に役立てた。	夏の学校見学会 中学生数1109名 、 校内の学校説明会 中学生数609名 HPの更新 335回以上 HP閲覧月1回以上 保護者43% 生徒26% HPはPR活動に役立つ 教職員85% 保護者83% 生徒73%	夏の学校見学会 中学生数1805名 、 校内の学校説明会 中学生数1061名 HPの更新 168回以上	中学生来訪者数 実数2000名以上 中学校、塾訪問 市内中学校各3回 HPの更新の継続、掲載記事の工夫(授業等学校生活全般の広報) 特色ある学校の取組(進学指導研究等)のPRの強化
	施設開放	(1) 施設開放、公開講座	(7) 感染症対策や緊急事態宣言に伴い、学校開放は限られた回数のみ実施、公開講座は計画したが実施できなかった。	施設開放は2日 公開講座は実施なし	公開講座は戦争についての講座9回74名、英会話についての講座1回5名、フランス語講座1回15名。	グラウンドやテニスコートの開放を実施 公開講座は1講座を予定
Ⅲ 地域交流等	地域とのかわり	(2) 地域貢献意識を高める。 (3) オリパラ教育を推進する。	(1) 感染症対策や緊急事態宣言に伴い、地域と連携した宿泊防災訓練は中止だが、本校の避難所施設の運営会議は開催され参加。 (2) 地域行事のオンライン開催への取り組みを検討した。 (3) オリピック選手の講演を予定していたが中止となった。	本校の避難所施設としての運営会議へ参加。 地域と連携に協力的 地元自治会85% 地元コミュニティセンターとオンラインで配信テストを実施	宿泊防災では実践に近い体験活動を行った。	地域に貢献できるボランティア活動を一層推進してゆく。 地域防災訓練では、地域の人たちとの協働で取り組む実践的なプログラムを一層推進してゆく。
	学校経営・組織体制・経営企画室の経営	学校経営・OJT	(1) 業務の効率化を推進し、ライ・ワーク・バランスの実現を図った。 (2) 体罰、セクハラ、個人情報保護など、服務事故ゼロの校内体制を維持充実させた。 (3) 主幹教諭、主任教諭を活用として、組織的・継続的なOJTを通じて、人材育成を行った。 (4) 校内研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図った。	(7) 拡大分掌会や拡大学年会などを実施し、課題の共有やと業務の在り方を検討し、効率的な仕事の進め方を工夫した。 (1) 体罰、セクハラ、個人情報保護など、具体的な事例を取り上げながら、教員面接や校内研修、日常の観察や声掛けなどで、服務意識の徹底を図った。 (2) 職層に応じた役割を明示し、自己点検により課題の明確化を図った。職層に応じた役割分担を行い、組織的で計画的な人材育成ができた。 (3) 服務事故防止研修、職員会議等で模試分析会を実施した。	拡大分掌会3回 拡大学年会2回 の実施。 教員の相互授業見学や若手教員の研究授業を実施。 教職員のお互いの協力度90%	職層に応じた自己点検、指導・助言の担当者を選定。教員向けの研修、若手教員研究授業
	学校評価アンケート	(5) 学校運営連絡協議会、保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に活用。	(4) 学校評価アンケートで、保護者からの回収率を高めることができた。 (5) 生徒のアンケートをオンラインで実施し、集計の効率化を図	アンケート 回収率 生徒 95% 保護者 41% 教職員 98%	アンケート 回収率 生徒 99% 保護者 11% 教職員 72%	アンケートの回収率を上げる工夫を実施 生徒 100% 保護者 50% 教職員100%

		った。			
新教育課程等	高大接続にかかわる学力向上に向けた新教育課程に取り組む。	次期教育課程の検討を進めることができた。	新しい入試制度や新学習指導要領への理解95%		次期教育課程は引き続き検討し決定する。
読書活動	(6) 学校司書・司書教諭を中心に、教科・学年・分掌と連携して言語活動の活性化を図った。	(加) 感染症対策のためビブリオバトルは実施できなかった。 (キ) 教科指導やキャリア教育、特別活動などで、図書館利用を促進した。	図書貸出数636冊 来館者数1726名	司書(業務委託)との連携を行った。(書評合戦、展示、ポスター作成等の広報活動の促進等) 図書貸出数2007冊 来館者数9877名	授業内、授業外での図書館利用の一層の促進 ビブリオバトルの全校的取り組みの促進、オリンピック推進教育等の他進路に関連した図書館の有効活用の工夫 図書委員会の主体的な活動への一層の取り組み。
予算編成	(7) 必要な品目を重点的に予算配分し、計画的・効果的に執行した。 施設・設備・備品を適正に管理し、有効に活用した。	(リ) 経営企画室と分掌・教科・部活動の連携を密にし、予算編成・執行を行った。 (ル) 感染症対策への取り組み、施設・設備の点検を強化、安全確保や美化・衛生に努めるとともに、サポートを必要とする生徒など、生徒が安心安全な生活が送れる環境整備に取り組んだ。	一般需用費センター利用率45.2% 予算執行率99%以上	一般需用費センター利用率43.8% 予算執行率99%以上	一般需用費学校経営支援センター利用率50%以上 予算執行率99%以上
授業料等	(8) 経営企画室と教員が連携し、収納及び執行管理を行った。 (9) 公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行った。	(イ) 納入状況を迅速に把握し、未納者に対しては迅速な督促を行い、早期納入に努めた。 (ロ) 学校徴収金については、「学校徴収金基本計画」に基づき、計画的かつ適正な予算執行をした。 (ハ) 学年と連携を密にして、就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度について周知し、申請書類の確実な回収を図った。	学校徴収金の未納率0%、 授業料納入対象者の未納率0%	学校徴収金の未納率0%、 授業料納入対象者の未納率0%	授業料及び就学支援金の支給に関わる適正・迅速化を継続して図る。